

リニアは夢の乗り物か？

# ストップリニアニュース No.41

発行：2017.7.18 リニア新幹線を考える相模原連絡会 <http://sagamihara-g.mond.jp/>

## ストップ・リニア！訴訟 1周年記念講演会＆シンポジウム

絶対に リニア新幹線はつくらせない！

6月23日、衆議院第一議員会館で提訴から1周年を記念しリニアの不要性と危険性を改めて考える講演会＆シンポジウムを開催しました。

ジャーナリストの斎藤貴男さんが「暴走するリニア新幹線」と題して基調講演。シンポジウム「真実を隠してリニアを進める闇に迫る」では、弁護団共同代表の関島保雄弁護士が今回の行政訴訟の意義を報告。

司会の川村晃生原告団長が、会場にもマイクを回して、学者・研究者・ジャーナリスト・JR東海労組・日本自然保護協会など大勢の方にコメントを求め、非常に内容が濃密なシンポジウムになりました。（建部）



## 第5回リニア口頭弁論 杜撰な事業の実情が顕わに！

6月23日（金）午後2時半から、ストップリニア！訴訟の第5回口頭弁論が東京地方裁判所で開かれました。

当日の法廷では、谷口昇さん（長野県大鹿村）、米山義盛さん（同松川町）の原告2人と原告代理人の金枝真佐尋弁護士が意見陳述しました。谷口さんからは生活道路を1日最大1736台もの大型工事車両が通行することによる生活環境の破壊への懸念が、米山さんからは大量の発生土の行先が決まらないまま工事が着工されている事業の無謀な実情が述べられました。

また、金枝弁護士からは、計画内容の不明確性と環境影響評価の対象とされない施設が多くあり、環境影響を評価したと言える実情がないことから、環境影響評価法33条に違反するとの主張がありました。

南アルプストンネルと中央アルプストンネルの狭間に位置する伊那谷での杜撰な事業の実情が改めて顕わにされた法廷でした。（河内）

## リニア中央新幹線学習会 住民無視で進められるトンネル工事

区分地上権エリアの今後は？・東京外環道を例に考える

お話 長谷川茂雄さん 公共事業改革市民会議 世話人  
道路住民運動全国連絡会 幹事

日時：2017年7月30日（日） 午後2時～4時（資料代500円）

場所：ソレイユさがみ セミナールームⅡ（JR、京王線橋本駅北口、スーパーイオン6F）

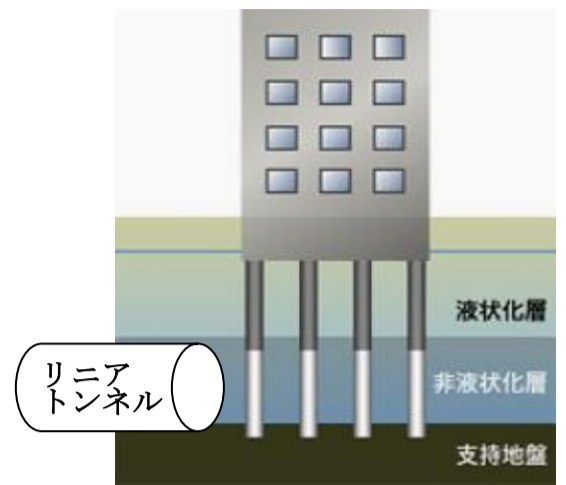
お願い

★ 活動はみなさまのカンパで維持しています、ぜひご協力をお願いします。  
郵便振替口座：00240-7-71305 口座名：リニア新幹線を考える相模原連絡会

発行者：代表 浅賀きみ江 相模原市緑区東橋本2-6-2 携帯 090-4378-9257

## 橋本駅近くのマンションで、立ち退きがあるかも！(浅いトンネル区間で)

JR 東海は、リニアのトンネル真上の地権者の皆さんへ説明会を開いています。(2月～夏頃) 地上部分はそのままに、地下をトンネルとして使う部分に「区分地上権」を設定しJRが永続的に使用する契約を結ばせてほしいという内容です。その説明資料に、基礎杭や井戸がトンネルにかかる場合、移転が必要になる場合があると書かれていました。6月27日市議会本会議で、田所健太郎議員がこの件で質問したところ、市は共同住宅が4棟程度該当すると答えました。(河村)



## “リニア「準備工事」に対して市民監視測定を始めました”

JR 東海は橋本 16 号沿い「餃子の王将」跡地で工期 2017.5 月～2018.3.30 まで立坑のための準備工事を始めました。

騒音や10トン級の大型トラックの運行により、児童の登校ルートでの事故、近隣への騒音被害などの懸念に対してJR 東海任せではなく、市民の目からこれらの被害状況を測定し、異常状態があれば申し入れをしていきたいと思い、測定を始めています。

尚、8月からは今より騒音拡大、工事車両の運行増加が懸念されます。被害を直接受けられる恐れのあるお近くの住民の方々も何か気付くことがありましたら、是非、情報を共有させてください。(岡崎)



準備工事の始まった「餃子の王将」跡地

## 他人事ではない北陸新幹線のトンネル被害



6月初旬、北陸新幹線のトンネル工事の被害を伝える新聞報道があった。場所は長野・飯山間の高丘トンネル上部(中野市安源寺地区)で、水枯れや建物のゆがみが生じたというものだ。後日、現地を訪れてみると、記事で紹介された小内八幡神社の門(基礎石と柱の間に隙間、左図)はすでに改修工事は始まっていた。

神社の周辺を注意深く見ると、建物の壁面などいたるところに亀裂が走っていた。高丘トンネルは安源寺地区の約20m下を走る。相模原市内のリニアのトンネルも同じくらいの深さである。北陸新幹線の工事は15年も前に始まったというのになぜ今まで被害状況が公表されずに来たのだろう。建設主体の鉄道・運輸機構は、リニアのアセスを控えたJR東海に気を使い、トンネル工事の被害の実態を報告せずにいたのではないかと疑いたくもなる。(籠島)